

1-3-2 各地区の通院流動は・・・

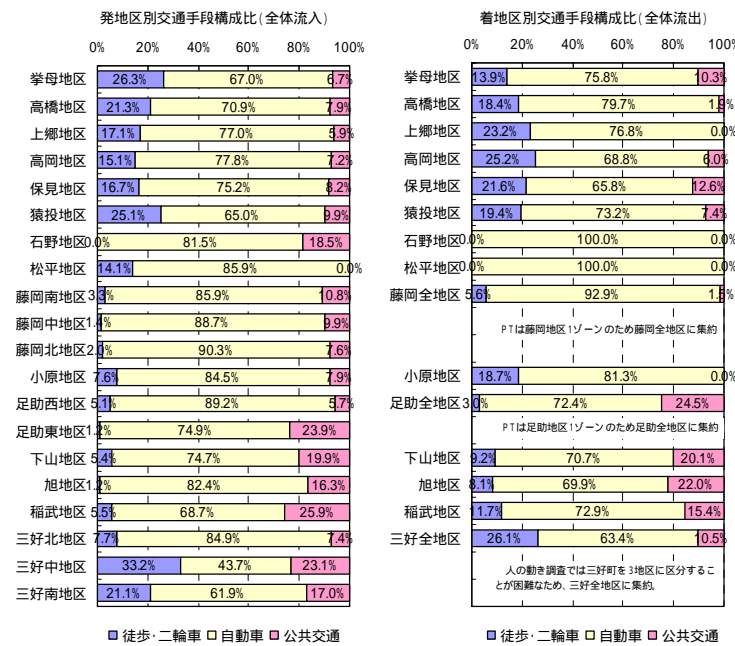
【圏域内・外流動】

- 医療施設への通院流動は、多くの大規模な医療施設を有す挙母地区への流動が多く、ほとんどの地区で高い割合を占めている。
- 挙母地区を除き、自地区内流動が50%を超える地区は足助・下山地区で、三好町も町内全体としては約52%となっている。
- 旭・稲武地区では足助病院のある足助西地区への流出割合が非常に高い。特に旭地区は自地区内流動割合が15%程度で、約67%が足助地区の施設を利用している。
- その他に保見・石野・松平地区は自地区内流動が20%を下回っており、豊田市中心部への依存度が高い。なお、保見地区では瀬戸市（約22%）、下山地区は岡崎市（約22%）への流出が多いことが特徴である。
- 三好町は他地区と比べて、名古屋市（約3%）、東郷町（約7%）、日進市（約4%）の近隣市町への流出も比較的高い割合となっている。

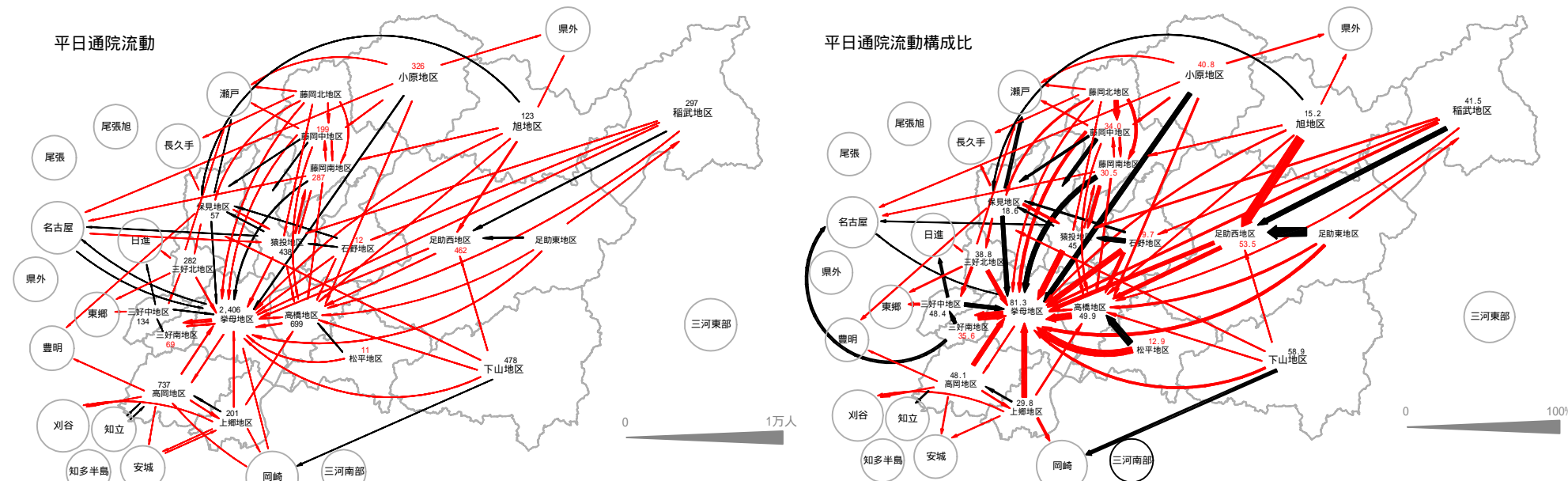
【交通機関分担】

- 通院流動は、比較的身近な医療施設に向かう傾向があるため、豊田地域及び三好町では徒歩・二輪車割合が高くなっている。
- 旧町村地域は他地区への流動が比較的高くなっているため、徒歩・二輪車の割合が低いが、通勤や買物等流動に比べ公共交通機関の利用割合が比較的高くなっている。

通院における交通手段分担率



全地区流動圏



(交通圏全体 - 通院目的自動車分担率 = 75.7%)

1-4 買物・娯楽等流動(平日)

1-4-1 全体的な平日買物・娯楽等流動の傾向は・・・

- ・ 多様な施設が集中する挙母地区、大規模商業施設を有す三好中・高橋地区は広域的な日常の生活拠点。
- ・ 身近な移動は徒歩・二輪車の利用もあるが、少し遠くなるとほとんどが自動車利用。
- ・ 公共交通はほとんど使っていない。

平日買物・娯楽等流入流出量

発地域	豊田地域	旧町村地域	三好町	圏内計	名古屋市	隣接市町村	その他	計
豊田地域	46,657	644	1,120	48,421	730	2,684	228	52,063
旧町村地域	2,693	3,676	6	6,375	66	304	294	7,039
三好町	855	46	4,792	5,693	183	661	50	6,587
圏内計	50,205	4,366	5,918	60,489	979	3,649	572	65,689
名古屋市	112	0	539	651				651
隣接市町村	1,647	59	1,256	2,962				2,962
その他	29	24	29	82				82
計	51,993	4,449	7,742	64,184	979	3,649	572	69,384

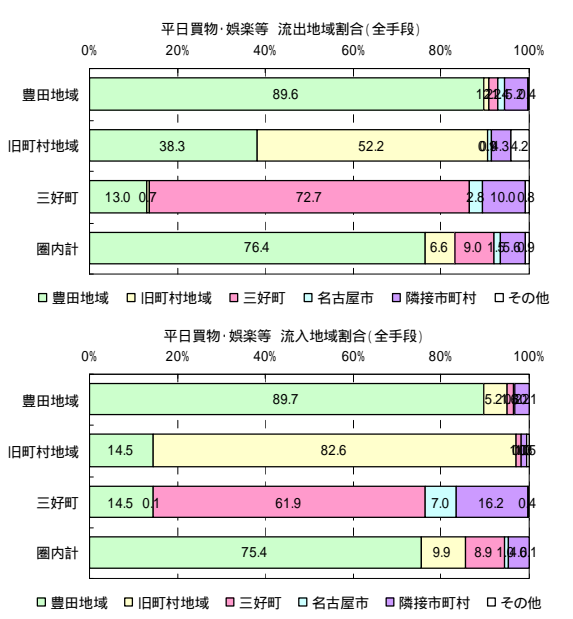
【流動の傾向】

- 各地域とも自地域流動が多くを占めるが、旧町村地域は豊田地域への流出割合が比較的高く、他地域からの流入は少ない。
- 三好町は、交通圏外の近隣市町からの流入も比較的高いことが特徴である。

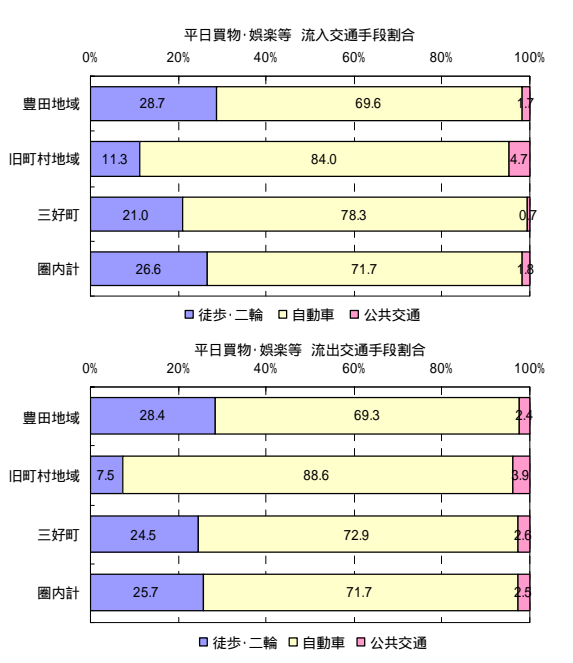
【交通機関分担】

- 全体的に自動車利用が高く、概ね70%を超えている。
- 徒歩・二輪車利用は全体で25%程度を占めるが、旧町村地域は非常に少なくなっており、自動車利用が80%を超えている。
- 流入・流出とも公共交通利用割合は極めて少ない。

平日買物・娯楽等流入流出先地域割合



平日買物・娯楽等流入流出交通手段割合



1-4-2 各地区の平日買物・娯楽等流動は・・・

【圏内流動】

- 豊田市の中心部である拳母地区、大規模商業施設を有す高橋地区、三好中地区への流動が多く、その地区では自地区内流動も60%を超えている。
- 足助・下山・松平地区では、拳母地区よりも高橋地区への流出割合が高く30%を超えている。
- 小原地区は藤岡南地区へ、旭地区は藤岡南地区と足助地区への流出割合が高い。

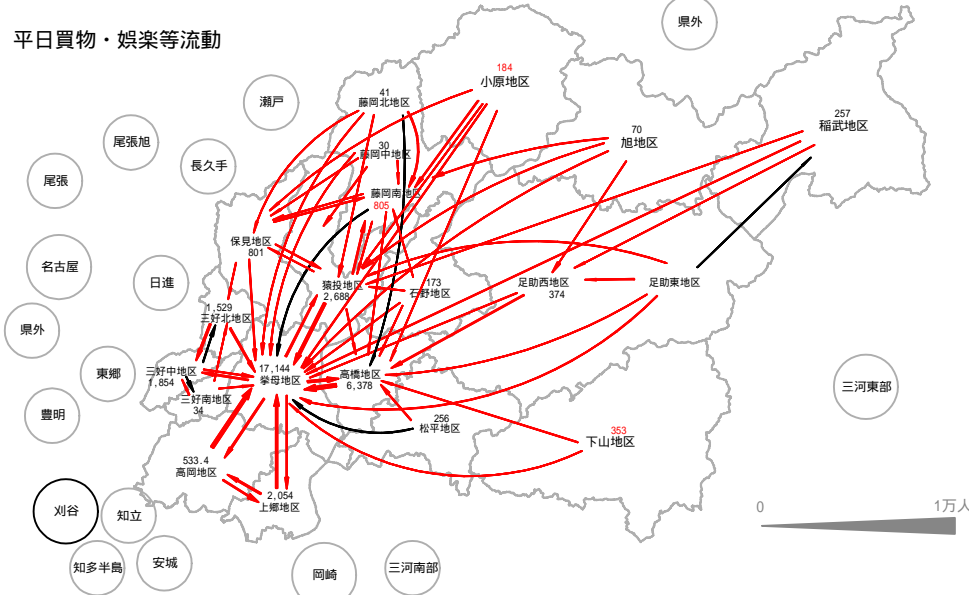
【圏外流動】

- 名古屋や隣接市町への流動もあるが比較的少ない。ただし、稲武地区は隣接他県へ、下山地区は岡崎市への流出割合が高い。
- 藤岡地区や保見地区では瀬戸市への流出割合が比較的高い。

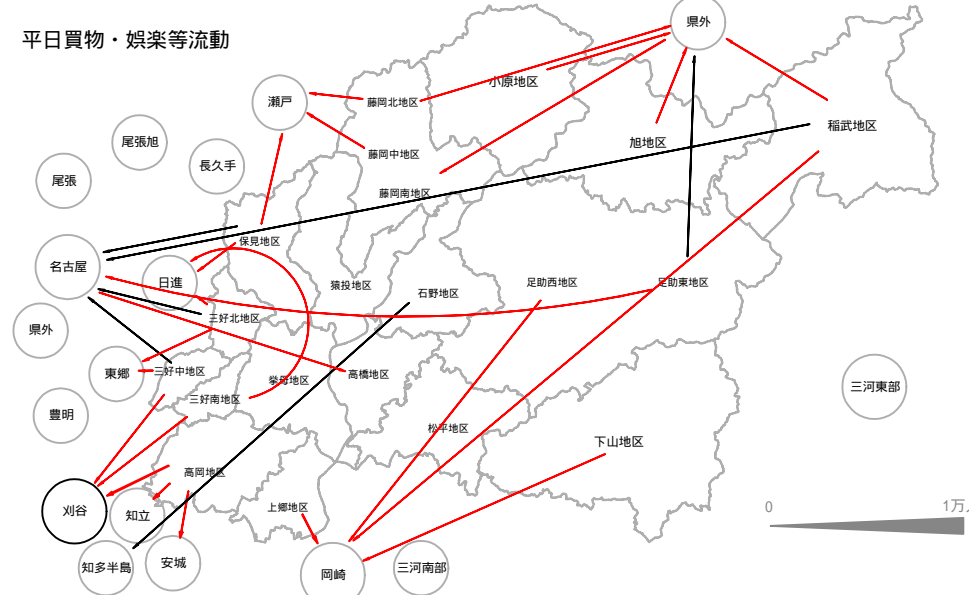
【交通機関分担】

- 地区内での移動は徒歩・二輪車の利用が多くなるが、地区間の移動ではほとんどが自動車利用である。
- 自地区内移動においても自動車利用割合は高く、地区によって異なるが、概ね60~70%である。
- 公共交通の利用割合は全体では3%に過ぎない。
- 旧町村地域では、地区間よりも地区内流動の方が公共交通利用割合は高い傾向にある。

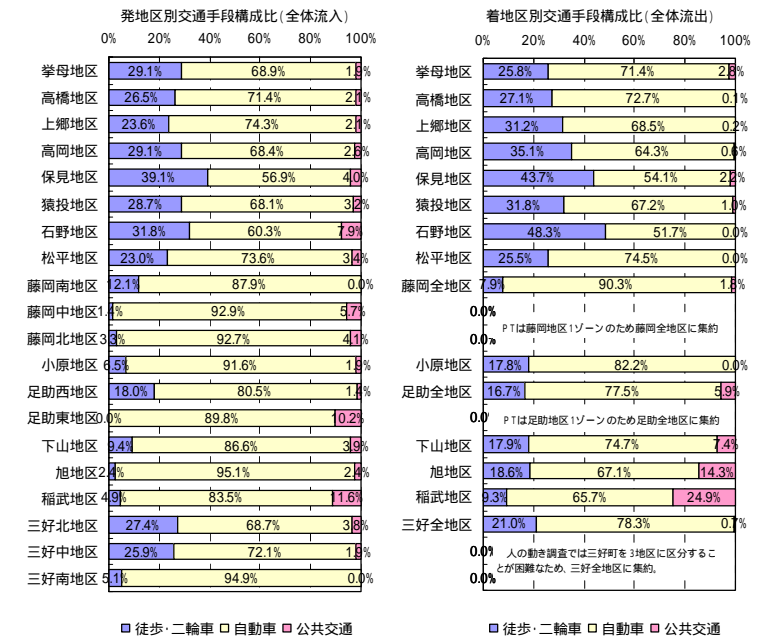
全地区流動図（圏内流動）



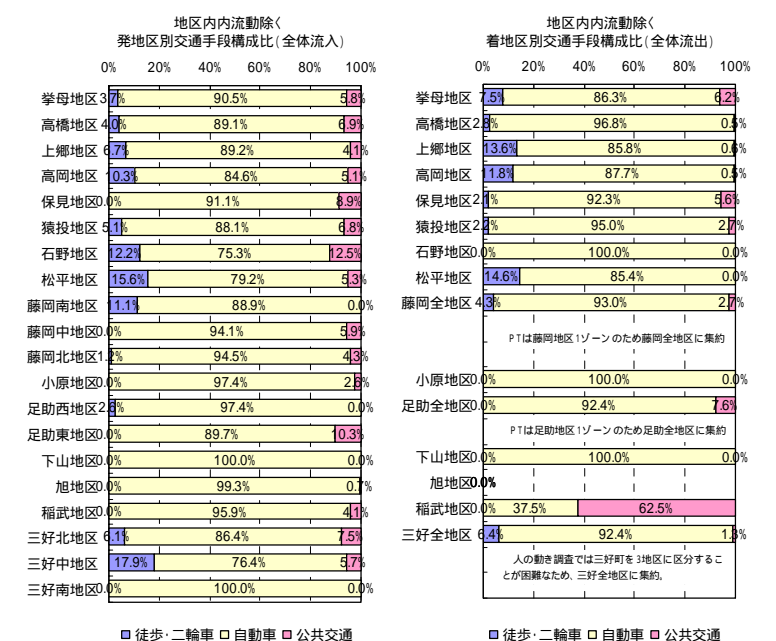
全地区流動図（圏外流動）



買物・娯楽等における交通手段分担率（全体）



買物・娯楽等における交通手段分担率（内内除く）



平日買物・娯楽等流動構成比



平日買物・娯楽等流動構成比



(交通圏全体 - 通院目的自動車分担率 = 72.5%)

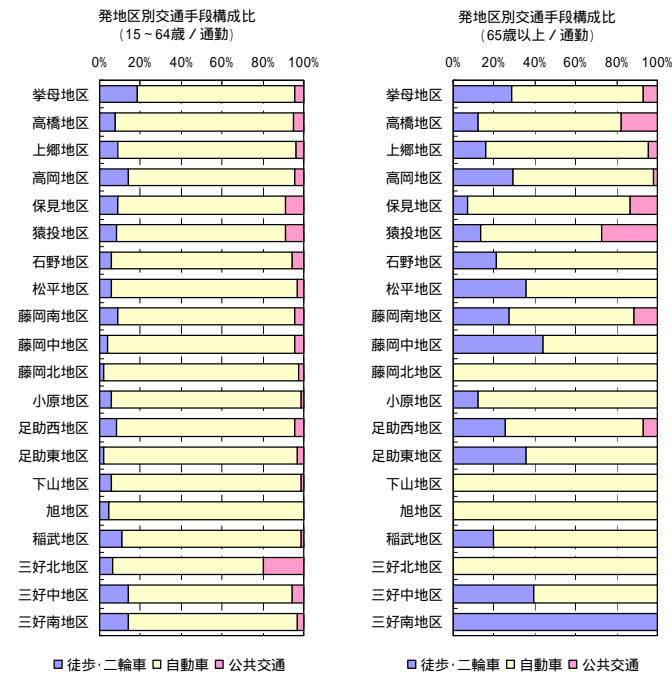
1-5 世代別にみた交通機関分担

- ・ 高齢者は公共交通を利用する割合が高いが、それでも自動車利用割合は60%程度ある。
- ・ 通勤のような毎日の行動での公共交通は、サービスレベルの低い地区では高齢者でも利用しない。

【通勤流動では・・・】

- 非高齢者に対し、高齢者の自動車利用割合は低く、地区によって徒歩・二輪車または公共交通利用の割合が比較的高くなっている。
- 旧町村地域の中でも公共交通が不便な地区（藤岡・足助地区以外）では高齢者も自動車利用の割合が高い。
- 通勤では、通院や買物等とは異なり、毎日比較的高いサービスレベルが求められるため、高齢者においても交通不便地域では公共交通利用割合は低い。
- 非高齢者は80～90%程度が自動車利用を占めており、地区による差はほとんどない。ただし、三好北地区は公共交通利用が20%と高い。

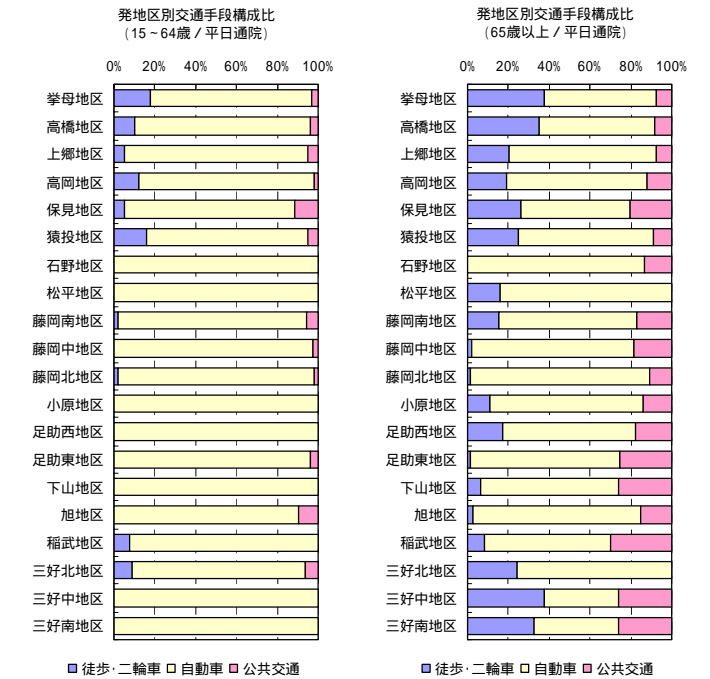
通勤流動・世代別代表交通手段分担率



【平日通院流動では・・・】

- 非高齢者に対し、高齢者の自動車利用割合は低く、徒歩・二輪車・公共交通利用の割合が比較的高くなっている。
- 通勤流動とは異なり、旧町村地域では公共交通に依存する傾向が見受けられる。
- 通院に対する公共交通利用割合は、通勤や買物等と比較してどの地区でも高い割合を占めている。
- 非高齢者は、ほとんどが自動車を利用しており、比較的医療施設が多く、公共交通を利用することも可能な豊田地域では徒歩・二輪車及び公共交通利用が若干高い。

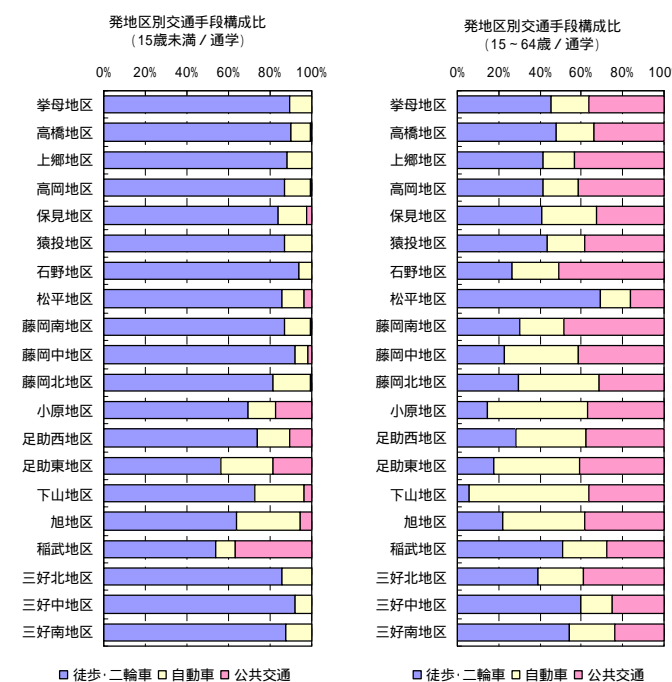
通院流動（平日）・世代別代表交通手段分担率



【通学流動では・・・】

- 中学生以下は基本的に徒歩、または自転車利用であり、都市部の豊田地域、藤岡地区、三好町では90%程度を占める。
- これに対し、藤岡地区を除く旧町村地域では、公共交通（バス）利用に加え、自動車（送迎）利用も比較的高い割合を占めている。
- 高校生以上では、同様に都市部では徒歩・二輪車と公共交通利用がそれぞれ30～40%を占めているが、旧町村地域では自動車利用の割合が比較的高い傾向にある。

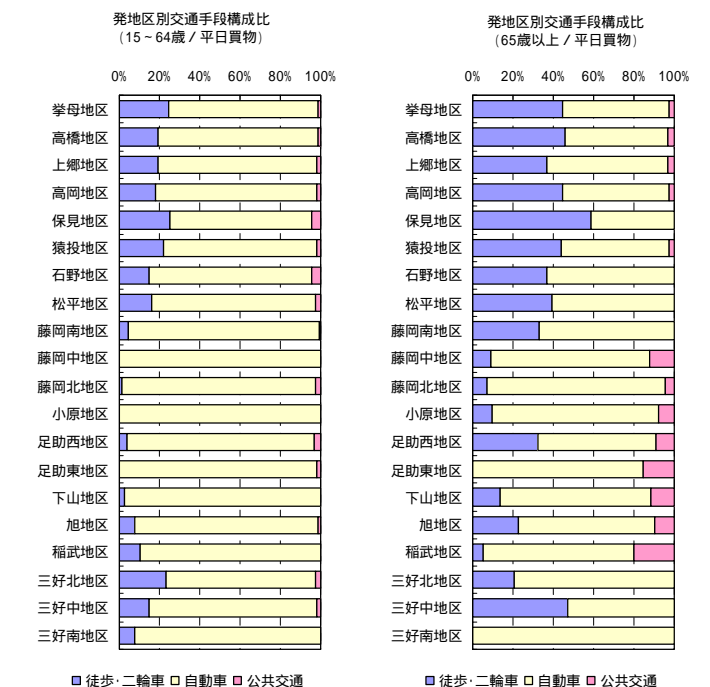
通学流動・世代別代表交通手段分担率



【平日の買物・娯楽等流動では・・・】

- 買物等の流動は、通勤や通院と比較して、都市部は徒歩・二輪車の占める割合が高い傾向にある。
- 特に高齢者はその傾向が強く、旧町村地域においても同様である。また、旧町村地域は、他地区に比べ公共交通利用の割合も高くなっている。

買物・娯楽等流動（平日）・世代別代表交通手段分担率



1-6 目的別の自宅発着時間帯の傾向

(1) 通勤及び帰宅時間帯

- ・ 出勤ピークは7時に集中、帰宅は17時前後に分散。
- ・ 旧町村地域は比較的自宅出発時間帯が早い。
- ・ 自動車利用に比べ公共交通利用は時間帯が限定し、自宅出発時間は早く、帰宅時間は遅い傾向。

【出勤】

通勤時の自宅出発時間は7時台がピーク（40～70％）であり、ピーク率は自動車利用者に比べ公共交通利用者の方が若干高い傾向にある。

自動車、公共交通利用とも、都市部の豊田地域・三好町に比べ、旧町村地域は7時前の割合が若干高くなっている。

都市部の中でも、自地区内または近隣地区への流動の多い挙母・高岡地区、三好中・南部地区などは、ピーク率が高いとともに7時台前の割合は少ない。

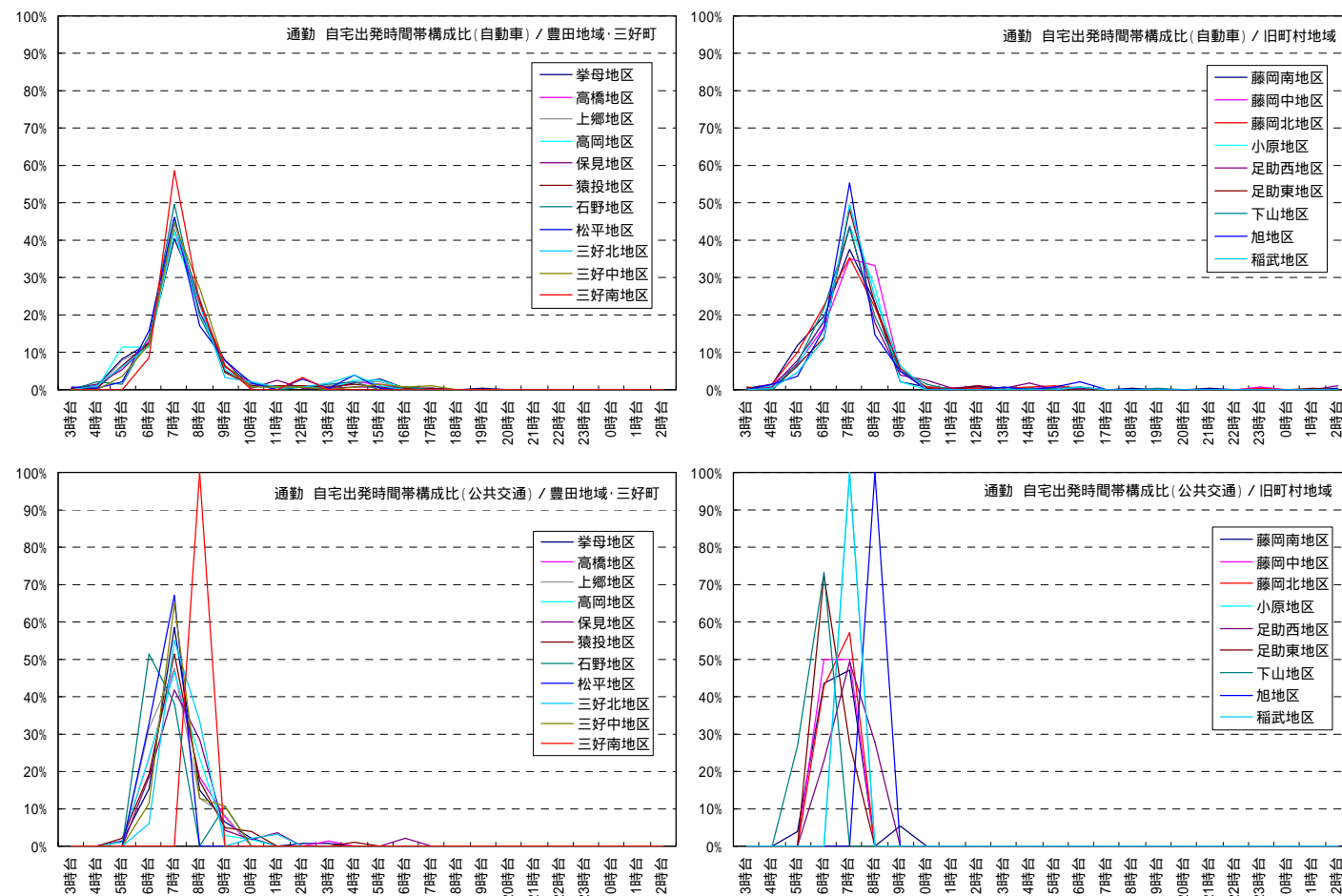
公共交通利用は自動車利用に比べて出発時間帯が若干早い傾向にある。都市部地区の6時台の割合は、自動車利用者が概ね10％程度であるのに対し、公共交通利用者は20％程度となっている。さらに、旧町村地域の公共交通利用はサンプルが少ない影響もあるが、6時台が50％以上を占める地区がある。

【帰宅】

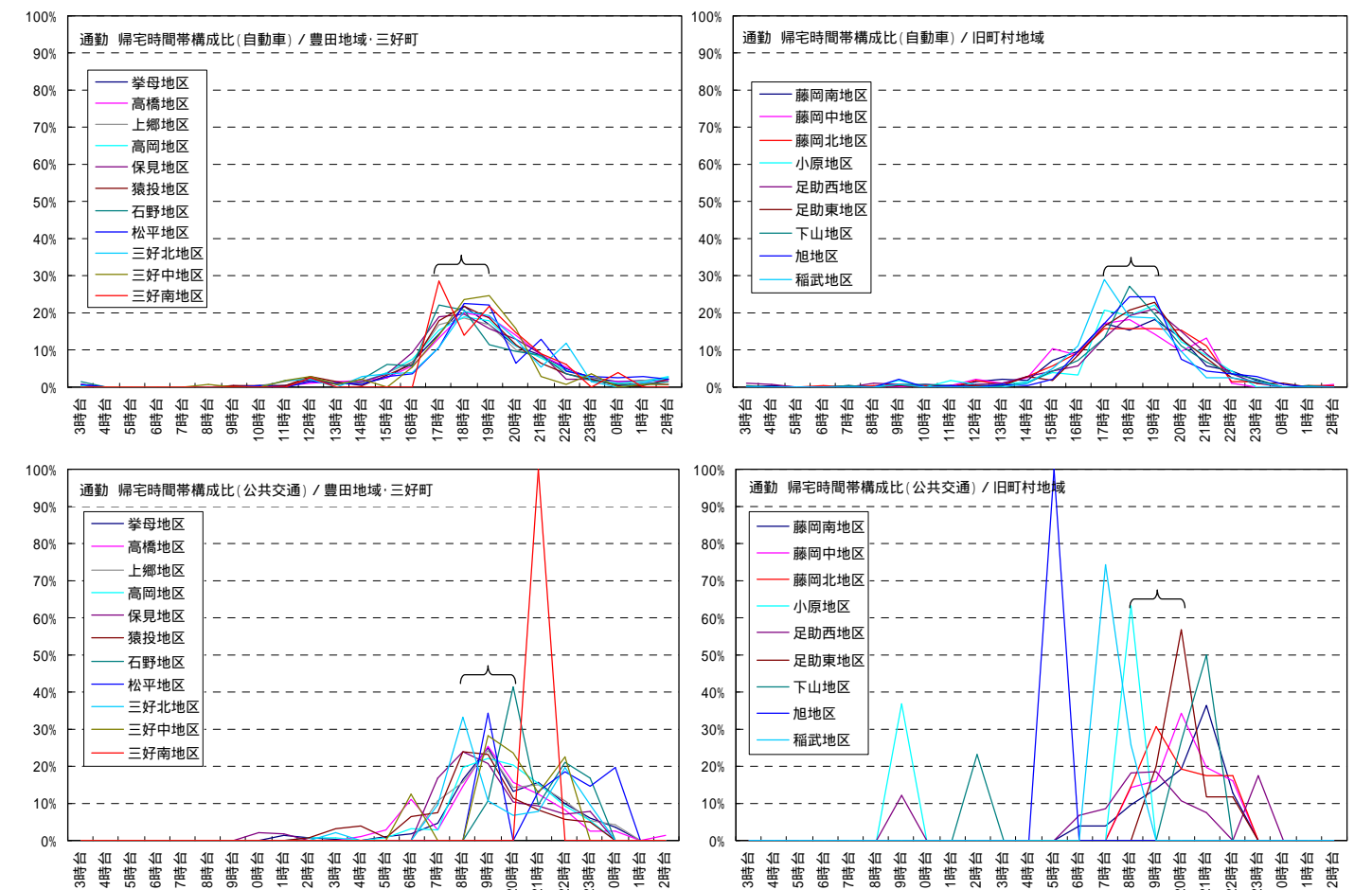
自動車利用者の帰宅時間帯ピークは概ねどの地区も17～19時台（ピーク率20％程度）であるが、旧町村地域の方が若干ピーク率は低く、15時台から高くなる傾向にある。

公共交通利用者は、自動車利用者に比べ帰宅時間帯ピークは1時間程度遅くなっている。

通勤流動・交通手段別自宅発時間帯構成比



通勤流動・交通手段別帰宅時間帯構成比



(2) 通学及び帰宅時間帯

- ・ ピーク率は出勤よりも高い。
- ・ 旧町村地域は自宅出発時間帯が早く、帰宅時間が遅くなる傾向。
- ・ 通勤同様、自動車利用に比べ公共交通利用は時間帯が限定し、自宅出発時間は早く、帰宅時間は遅い傾向。

【通学】

自動車利用者の豊田地域・三好町の都市部では、通勤とは異なり8時台がピークとなっている。公共交通利用者は通勤と同様に7時台がピークである。旧町村地域では、比較的都市部に近い藤岡南・中地区が都市部と同様の傾向となっている。

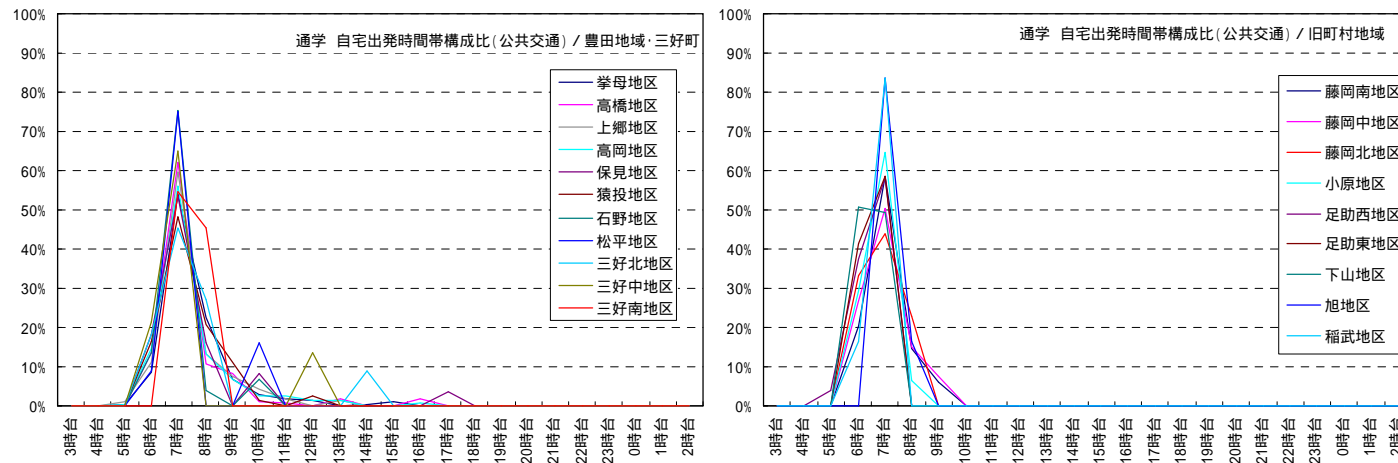
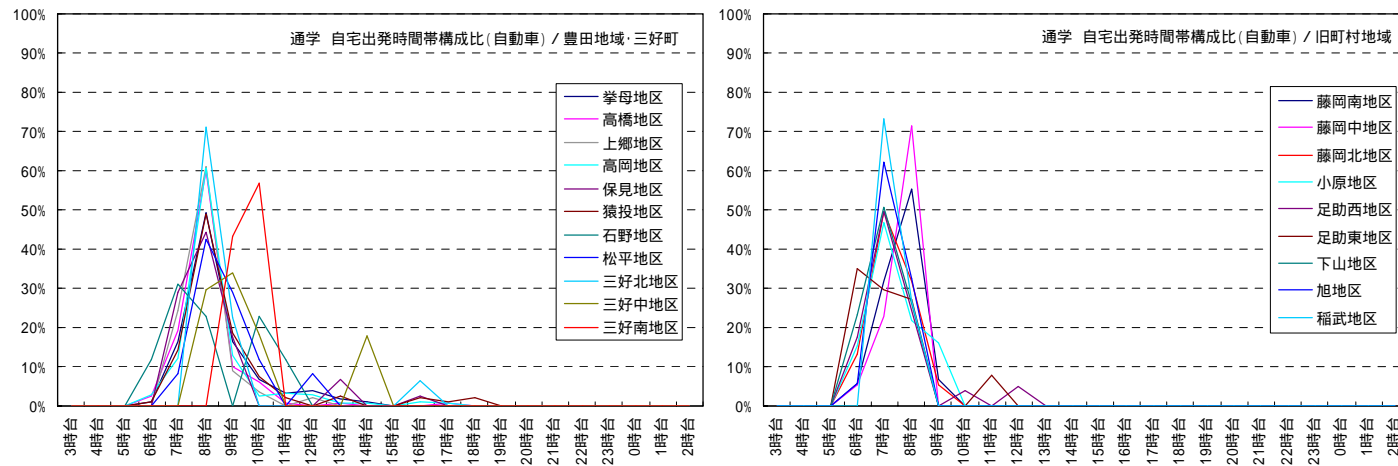
ピーク率は通勤と比べて全体的に高く40～70%となっているが、自動車、公共交通利用とも同程度となっている。

【帰宅】

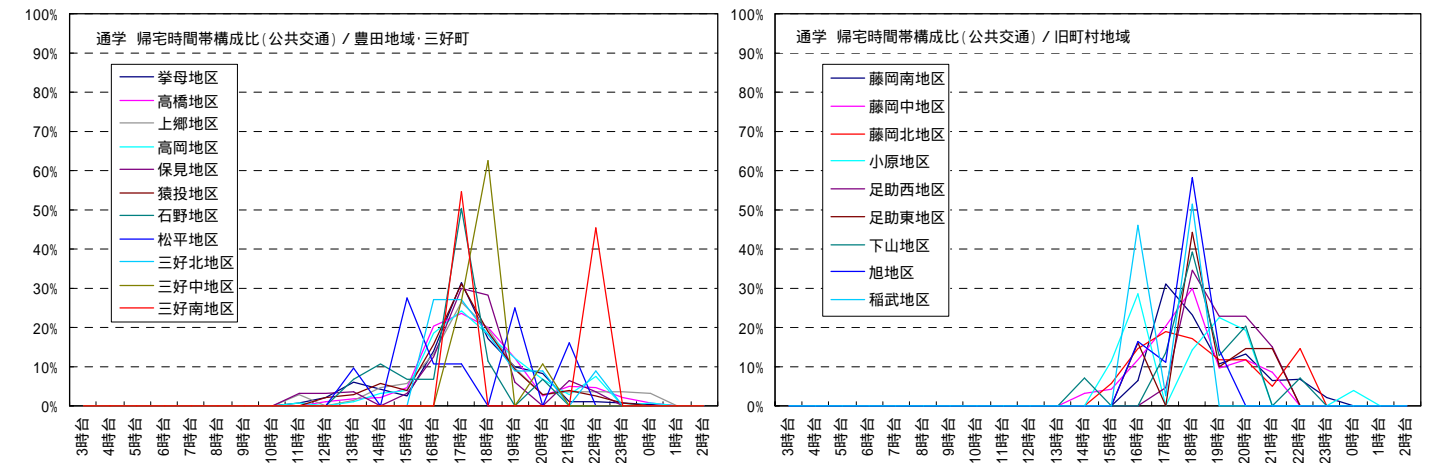
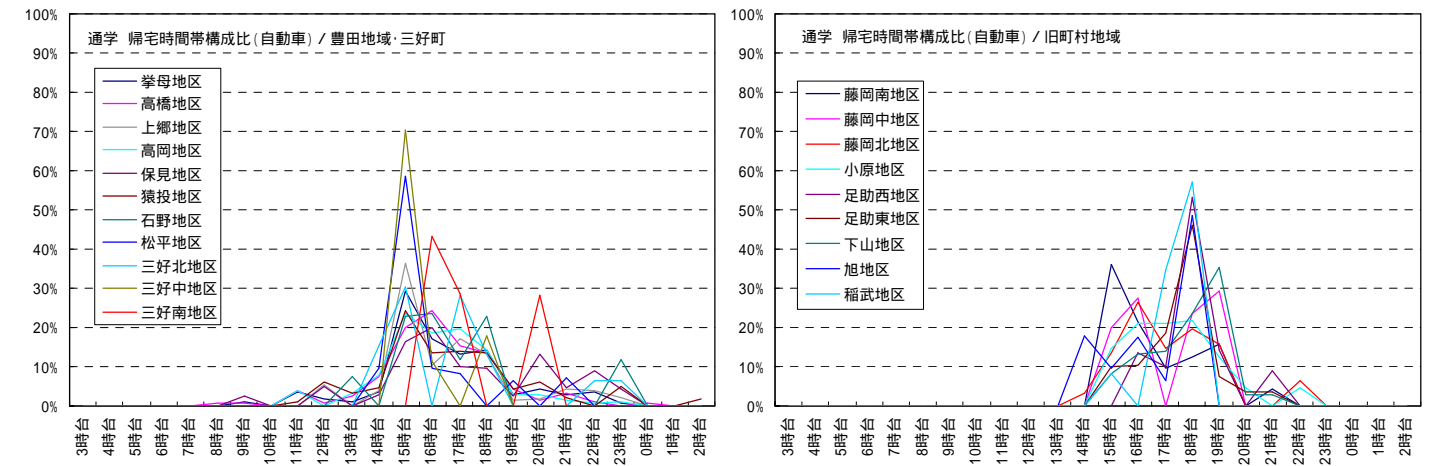
都市部と旧町村地域を比較すれば、都市部の方が帰宅ピークは早い時間帯となっている。都市部の自動車利用は3時台からピークとなっている。

公共交通利用は自動車に比べピークが1時間程度遅く、帰宅時間帯の範囲が狭い。また、旧町村地域においても都市部と比べれば帰宅時間帯範囲が狭くなっている。

通学流動・交通手段別自宅出発時間帯構成比



通学流動・交通手段別帰宅時間帯構成比



(3) 平日通院及び帰宅時間帯

- ・ 都市部地区は自宅出発時間帯が9～10時台、帰宅時間帯が1時間後の10～11時台に集中。山間地域ではそれぞれ1時間程度遅くなる。
- ・ 自動車利用に比べ公共交通利用は時間帯が限定し、自宅出発時間は早く、帰宅時間は遅い傾向がある。

【通院】

通院のための自宅を出発する時間帯は、自動車利用は8～10時台にピークが分散しているが、公共交通利用は地区によってそれぞれの時間帯で高いピークが生じている。

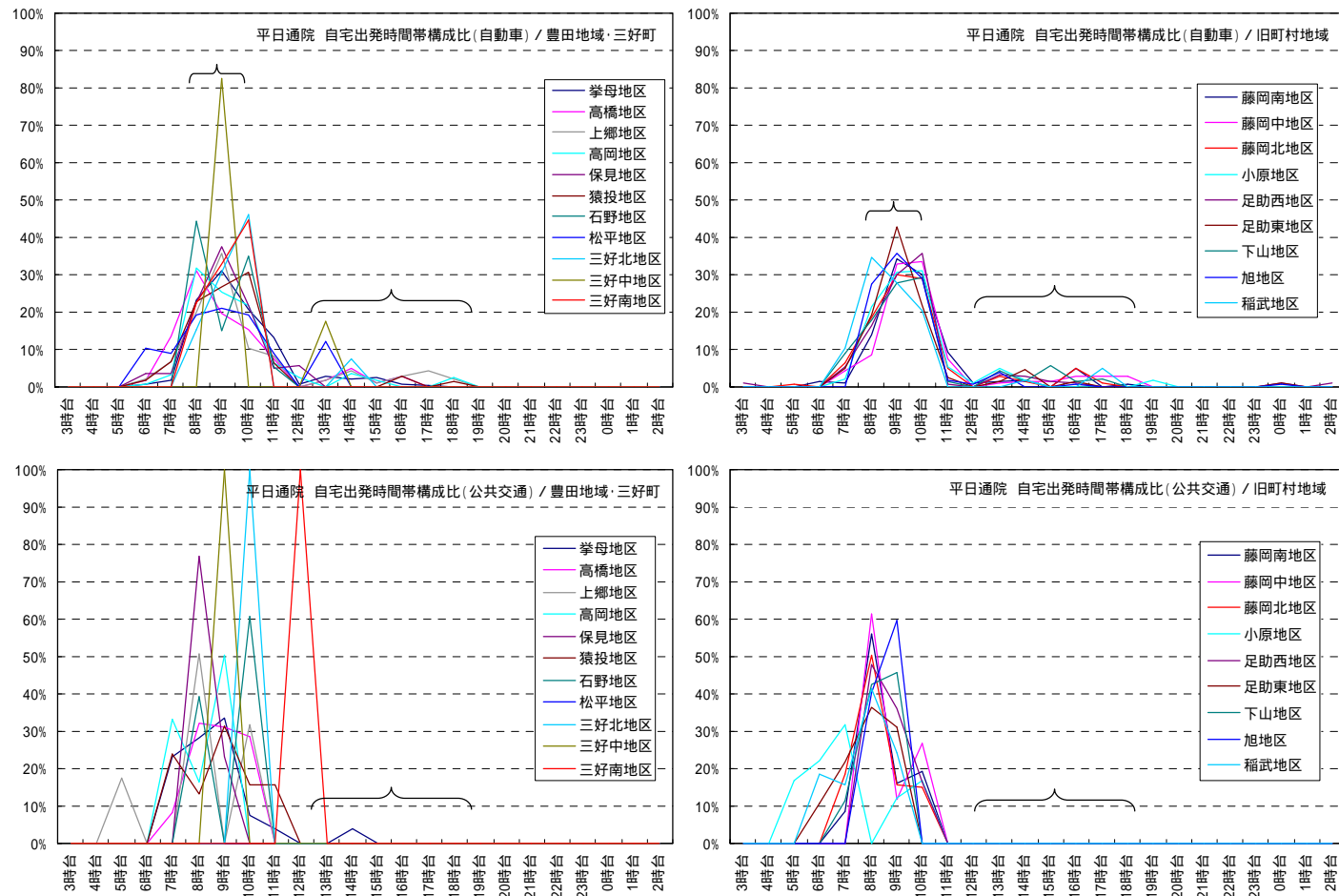
自動車利用では昼を過ぎても若干の通勤流動があるのに対し、公共交通利用はほとんどが午前中である。

【帰宅】

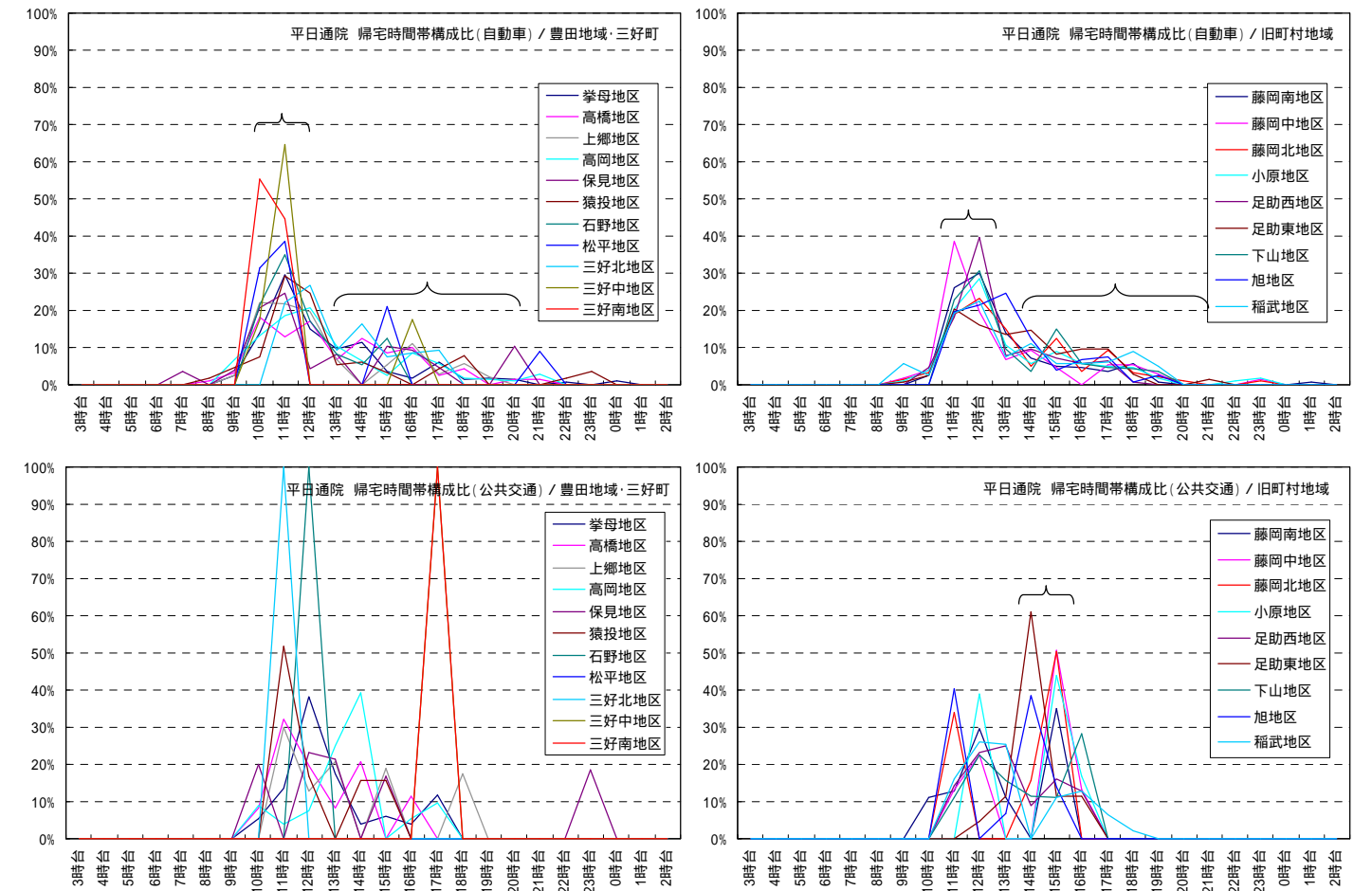
自動車利用者は、10～12時台がピークであるが、夕方までに掛けて帰宅時間帯が分散している。特に都市部では10時台にも15%程度の帰宅があり、短時間で目的が達成しやすいことが伺える。

旧町村地域の公共交通利用は、地区によってピークが異なるが、自動車利用及び都市部の公共交通利用に比べて比較的遅い14～15時台にもピークが発生している。

平日通院流動・交通手段別自宅発時間帯構成比



平日通院流動・交通手段別帰宅時間帯構成比



(4) 平日買物・娯楽等及び帰宅時間帯

- ・ 自宅出発時間帯は10時頃がピーク、帰宅時間は昼前と昼過ぎの2時間帯にそれぞれピークがある。
- ・ 自動車利用に比べ公共交通利用は時間帯が限定し、自宅出発時間は早く、帰宅時間は遅い傾向がある。
- ・ 自動車利用は午後から行動することもあるが、公共交通利用では午前発がほとんどである。

【買物等】

自動車利用では午前の10時台に大きなピークがあり、昼を過ぎた13～15時台にかけて小さいピークが生じている。

旧町村地域は、都市部と比べてピーク率が高く、また、若干早い時間帯から行動している。

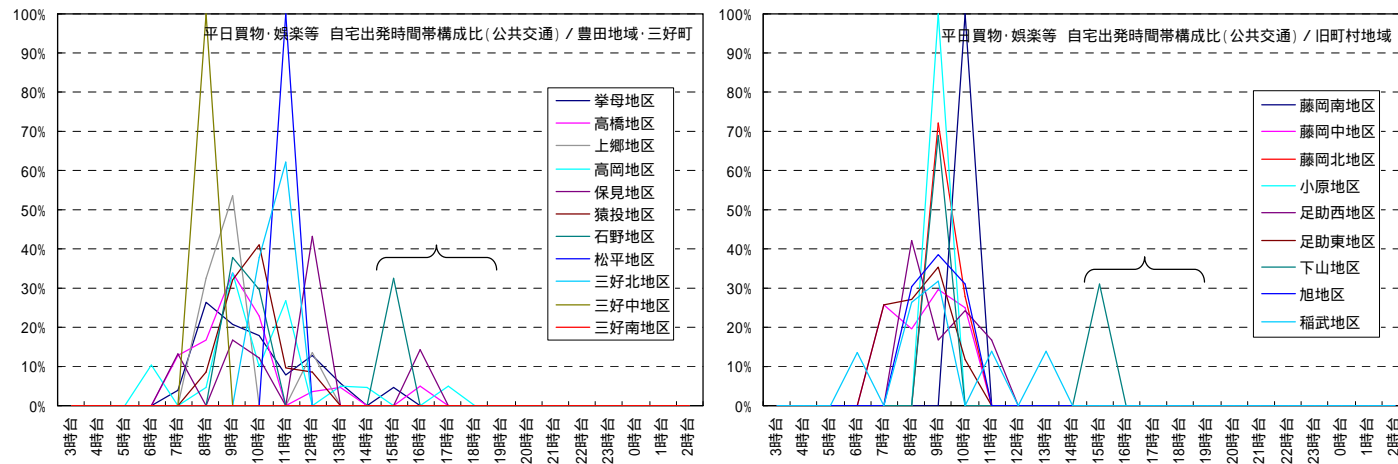
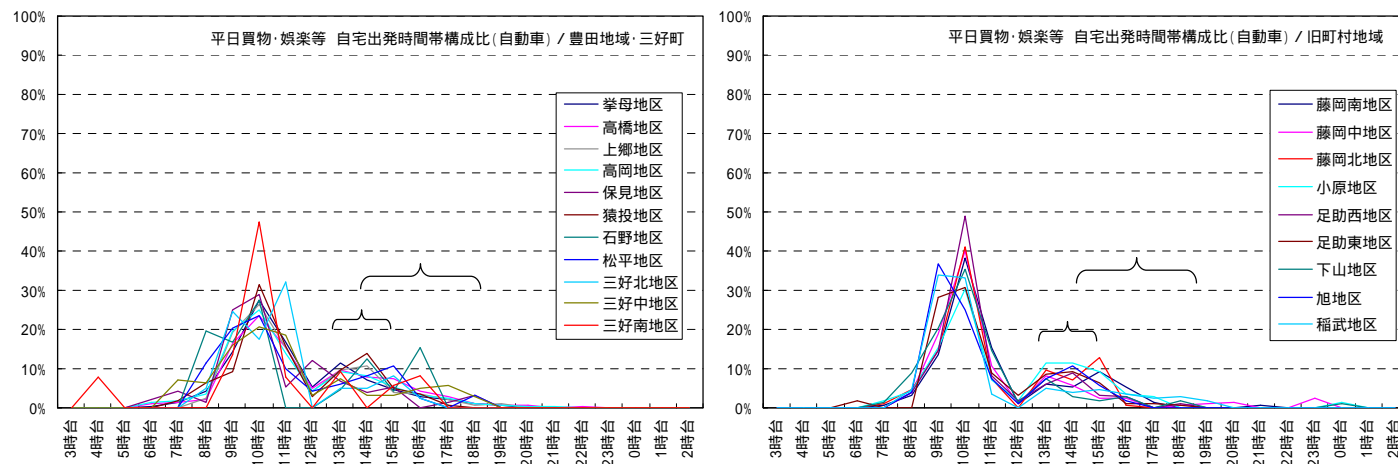
自動車利用は遅い時間帯からでも行動しているが、公共交通利用者ほとんどが午前中であり、旧町村地域はその傾向が強い。

【帰宅】

自動車利用では、帰宅時間帯ピークは出発時間帯の1時間後が多くなっているが、ピーク率は出発時に比べて低く、概ね13～14時台を挟んだ前後に同程度の2つのピーク時間帯がある。

公共交通利用はそれぞれの地区で概ね時間帯が限定されピーク率が高い。

平日買物・娯楽等流動・交通手段別自宅発時間帯構成比



平日買物・娯楽等流動・交通手段別帰宅時間帯構成比

